



## 湾岸・アラビア地域ニュース

### バハレーン：カタルとの鉄道建設計画 (6月29日付「ガルフ・デイリーニュース」)

1. ドイツのトランスラピッド・インターナショナル社によれば、バハレーンのマナーマとカタルのドーハ間を 30 分で結ぶ高速鉄道の建設に関し、両国政府の代理人と密接に連絡を取り合っているとのこと。
2. 電磁力を利用した「マグレブ(Maglev)技術」は、2002年に上海で高速鉄道を建設した際に始めて用いられた。トランスラピッド社のウェブサイトでは、ガルフ地域で同技術を適用する詳細プランが示されている。具体的には、マナーマ・ドーハ間(145Km)とアブダビ・ドバイ間(185Km、ジャバル・アリ、アブダビ国際空港経由)の二つのプランである。
3. 鉄道建設プランは、2005年に当時のシュレーダー独首相が当地を訪問し、湾岸諸国のハイテク輸送技術に関する興味の高さを打診した際に浮上したもの。その後、本件は立ち消えになっていたかに思われていたが、トランスラピッド社が今週、カタル国内での建設計画と、バハレーンへの延長の可能性を当局と交渉していることを正式に認めた。但し、同社は、建設費用及び完成の時期については言及していない。
4. 一方、自動車用のバハレーン・カタル架橋(40Km、30億米ドル)の事前作業は既に始まっており、こうしたプロジェクトは景況に沸く湾岸近隣諸国からの投資を促進するものとなる。バハレーン人にとっては、住宅費の高さで悪名の高いカタルに居住することなく、カタルでの高給を得ることを可能にするであろう。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799